

最小二乗問題の反復解法

Iterative solution of least squares problems

速水 謙 (情報学プリンシプル研究系)
Ken HAYAMI (NII)

伊藤 徳史 ((株)ビジネスデザイン研究所)
Tokushi ITO (Business Design Laboratory Co. Ltd.)

何がわかる？

大規模な最小二乗問題

$$\min_{x \in R^n} \|b - Ax\|_2, \quad A \in R^{m \times n}$$

を解くロバストな反復解法を提案し、その理論的性質を明らかにし、その有効性を数値実験により検証する。

どんな研究？

$B \in R^{n \times m}$ を用いて

$$\min_{z \in R^m} \|b - ABz\|_2 \quad \text{または}$$

$$\min_{x \in R^m} \|Bb - BAx\|_2$$

を反復法を用いて解く。

状況設定

最小二乗問題は、曲線のあてはめ、統計モデリング、測地、写真測量、信号処理、制御、逆問題や積分方程式の解法など、科学・工学でよく現れる。

大規模問題に対しては、従来、正規方程式 $A^T Ax = A^T b$ に(前処理付き)共役勾配法(CG法)を適用するのが主流であった。しかし、それだと条件の悪い問題では収束が遅い。

そこで、本研究ではZhang and Oyanagi(1991)にならない、正方行列を係数行列にもつ最小二乗問題 $\min_{z \in R^m} \|b - ABz\|_2$ に変形し、ロバストなクリロフ部分空間反復法である一般化残差最小化法(GMRES法)を適用することを考える(AB-GMRES法)。

さらに、 $\min_{x \in R^m} \|Bb - BAx\|_2$ にGMRES法を適用することも考える(BA-GMRES法)。

研究状況

連立一次方程式 $Ax = b$ ($A \in R^{n \times n}$)に対する
ロバストなクリロフ部分空間反復法：

GMRES(k)法 Generalized Minimum Residual (k) method

Choose x_0 .

* $r_0 = b - Ax_0$

$v_1 = r_0 / \|r_0\|_2$

for $i = 1, 2, \dots, k$

$h_{j,i} = (Av_i, v_j)$ ($j = 1, 2, \dots, i$)

$\hat{v}_{i+1} = Av_i - \sum_{j=1}^i h_{j,i} v_j$

$h_{i+1,i} = \|\hat{v}_{i+1}\|_2$

$v_{i+1} = \hat{v}_{i+1} / h_{i+1,i}$

Find $y_i \in R^i$ which minimizes $\|r_i\|_2 = \|r_0\|_2 e_i - \bar{H}_i y\|_2$.

if $\|r_i\|_2 < \varepsilon$ then

$x_i = x_0 + [v_1, \dots, v_i] y_i$

stop

endif

endfor

$x_0 = x_k$

Go to *.

($k = \infty$ がGMRES法に相当する。)

記号

$R(A) = \{Ax \mid x \in R^n\}$: A の像(range)

$N(A) = \{x \in R^n \mid Ax = 0\}$: A の核(nullspace)

AB - GMRES法：

$\min_{z \in R^m} \|b - ABz\|_2$ にGMRES法を適用。

定理 1

$$R(A^T) = R(B), \quad R(A) = R(B^T)$$

↓

AB - GMRES法は任意の右辺 $b \in R^m$,

任意の初期解 $x_0 \in R^n$ に対して破綻することなく

$\min_{x \in R^n} \|b - Ax\|_2$ の最小二乗解を与える。

BA-GMRES 法 :

$\min_{x \in R^n} \|Bb - BAx\|_2$ にGMRESを適用.

定理 2

$$R(A) = R(B^T), \quad R(A^T) = R(B)$$

⇓

BA-GMRES法は任意の右辺 $b \in R^m$, 任意の初期解 $x_0 \in R^n$ に対して破綻することなく $\min_{x \in R^n} \|b - Ax\|_2$ の最小二乗解を与える.

フルランクな場合

$m \geq n = \text{rank}A$ (優決定問題)

$B = CA^T, C \in R^{m \times n}$: 正則 とおくと,

$R(A) = R(B^T)$, かつ $R(A^T) = R(B) = R^n$.

例えば $C = \{\text{diag}(A^T A)\}^{-1}$.

定理 3

$A \in R^{m \times n}, m \geq n,$

$B = CA^T, C \in R^{m \times n}$: 対称正定値,

$\sigma_i (1 \leq i \leq n)$: AC^2 の特異値

⇓

$\sigma_i^2 (1 \leq i \leq n)$: AB および BA の固有値,

$m > n$ ならば AB の他の固有値は全て0.

(AB 法と BA 法の収束性の類似.)

$\text{rank}A = m \leq n$ (劣決定問題)

$B = A^T C, C \in R^{m \times m}$: 正則 とおくと,

$R(A^T) = R(B)$, かつ $R(A) = R(B^T) = R^m$.

例えば $C = \{\text{diag}(AA^T)\}^{-1}$.

定理 4

$A \in R^{m \times n}, m \leq n,$

$B = A^T C, C \in R^{m \times m}$: 対称正定値,

$\sigma_i (1 \leq i \leq m)$: $C^{\frac{1}{2}}A$ の特異値

⇓

$\sigma_i^2 (1 \leq i \leq m)$: AB および BA の固有値,

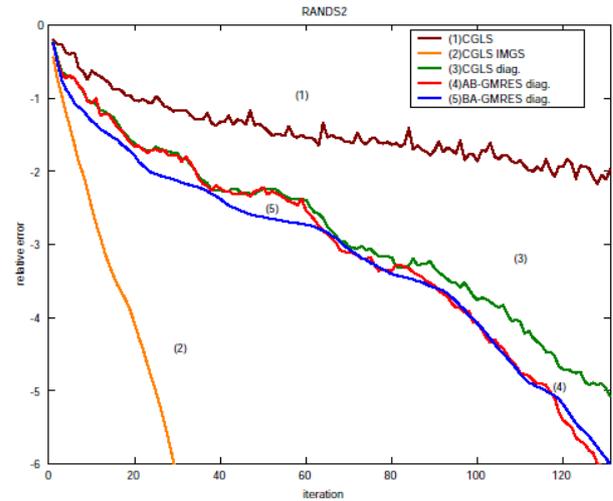
$m < n$ ならば BA の他の固有値は全て0.

(AB 法と BA 法の収束性の類似.)

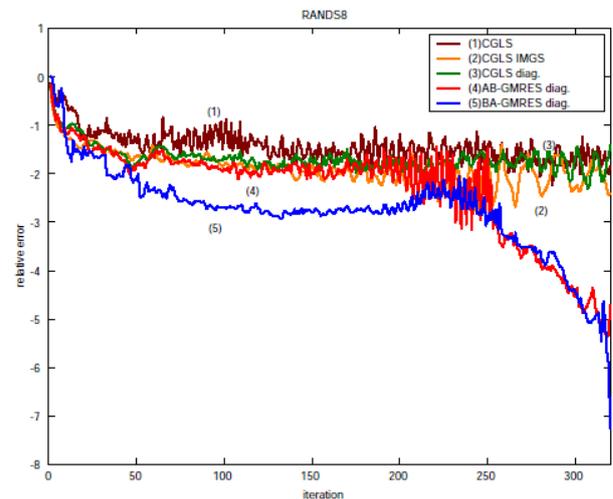
数値実験例

優決定問題 ($m = 1,000, n = 320$)

条件数: 2×10^2



条件数: 1×10^8



劣決定問題 ($m = 320, n = 1,000$)

条件数: 1×10^8

